

特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク

2019年度事業計画書

期間：2019年4月1日～2020年3月31日

若者の力を活かして
地域の活性化/課題解決を
加速する

Tochigi
Youth
Supporters
Network*

実施団体・問合せ

特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク

〒320-0808 栃木県宇都宮市宮園町8-2松島ビル2階

TEL/FAX 028-612-3341 E-mail ysn_office@tochigi-ysn.net

URL <http://www.tochigi-ysn.net>

2019年度の組織運営計画について —NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク—

1. ビジョンとミッションの確認

ビジョン —目指す社会像— それぞれの強みや違いを活かし、繋がり合い、主体的に未来を創る行動に溢れるいきいきとした社会

ミッション —社会的使命— 若者の力を活かして、地域の課題解決/活性化を加速する

2. 前年度(2018年度)の基本方針の実行検証と総括

上記のミッションの達成を図る為、2018年度の組織運営に係る基本方針として以下の事項を設定した。実行の検証を行い、2019年度の基本方針に活かしていく。

(1) YOUTH TIMEを基軸としたプレイヤーの事業加速と新たなプレイヤー参画を支える。

アイデアネクスト修了生をはじめ当会のプログラムからプレイヤーとして地域課題・活性化に立ち向かう若者のその後の援護として定期的に、取り組みや必要としている資源、抱えている課題などを発表し、そこに何か始めたい若者や支援者(会員、寄付者)と繋がりそれぞれの現場を加速する機能を強くしたYOUTH TIMEを展開する。また地域の現場(課題や組織)や当会との接点かつ地域づくりへの動機付けともなる入り口のプログラムの提供者数が増える中で、そこでの接点を他のプログラムやすでに動いているプレイヤーとの直接的接点を創り出し機能としてもYOUTH TIMEを展開する。また地域のリーダーが集い、集中して議論し、学び合うリーダーズ合宿(仮称)を開催する。

YOUTH TIMEでは、iDEA>NEXTの卒業生による現在の挑戦の進捗報告会、また実践型インターンシップの報告会など、(2)の基本方針にもあるように、これまで育んだ若者たちの取り組みの発表を行った。

①挑戦者の加速、②会員へのインセンティブとして会員コミュニティ化、③新たな挑戦者の入り口の機能を目指したものの、①は有効であるものの、②③については、余り参加が見られず位置づけの見直しから必要である。

また委員会等をはじめ会員の参画により事業運営していく点については、会員のニーズがあるかを今一度確認し、見直す。とはいえ、当会に関わる広いステークホルダーとのコミュニケーション、関わっていただけることの喜び、プログラムの連動、プログラム提供者の共有は、支援機能の広く、深く、よりミッションの実現に向けて必要不可欠であると考え、当会に関わりいただけている人とのコミュニケーションを再考していく必要がある。

(2) 成果の定義と可視化への挑戦

挑戦する若者への期待と信頼をより一層高め、“挑戦が循環する生態系を創りだしていく”上で彼らの活躍の先にある成果とは何かを、社会に提示していく必要がある。しかしながら、何を持って成果とするかは未だ不明確であるため、今年度は、こちらの成果の定義を会員と協議し、その成果をどのように魅せていくかを定めていく。

これまで紙媒体としての「Challenge report」を、情報の切り取りの難しさ、オペレーションの複雑さから廃止し、彼らの挑戦の可視化(当会の成果)としての魅せ方を、直接発表、また交流してもらえる機会に注力した。

上記YOUTH TIMEは、もちろんのこと、各種業務委託のプログラムにおいても、彼らを講師として登用するなど、積極的に行った。これらの取り組みから、輩出した若者たちに新たな役割や期待を頂く展開などが生まれている。しかしながら、まだ解を得た確信は持っておらず、広く若者の力が活かされた成果を可視化し、期待と信頼を高めていく循環につなげていきたい。

(3) 現場回帰への模索と検討

プログラムによる人材育成やコーディネート機能をより日常的なものにしていくため、また職員の課題解決力を高めていくために、当会自身が地域の課題に対して立ち向かう現場を持つための検討を行う。具体的には、まず我々が関わるべき地域課題の把握する。その後、活動拠点やその課題に対する継続的事業モデル、実施体制、資源調達などの計画を策定する。 =>

我々自身が、地域の課題、現場に関わっていく、「支援」機能から「実践」機能を高めていく次の展開において、エリア、新しい拠点を検討準備してきた。その中で、地域に根付いたお寺の住職から、お寺自身が「人づくり、まちづくり」をしていくお寺としての原点回帰をしていく想いと重なりにより、次年度の実施を予定し、新たな拠点の整備、機能づくりなどを協議を続けている。

【総括】 事業計画の執行については、概ね達成できたと考えているが、職員の退職等当初の実行体制が組めず、未来の布石となるアクションが推進力が落ちた。これまでのプログラム開発・提供を中心とした事業スキームは、期待値は依然高いものの、発展傾向にある。しかしながら、社内の人材育成・定着を踏まえ、事業を動かして事務局の強化と内部人材のノウハウ/ネットワークの蓄積、共有が求められている。またさらなる社会的必要性に添えていけるよう、これまでの事業スキームありきの運営から脱却し、2019年度は、第二弾となる新たな事業スキームの開発と運用に挑んでいく。

代表理事 岩井俊宗

3. 2019年度基本方針

ミッションの達成を図る為、当会のミッション、2018年度の基本方針の実行検証、また現在の外部環境と当会の課題認識を踏まえて、以下の事項を2019年の基本方針と重点事業に位置づける。

(1)現在取り巻く外部環境の認識について

①従来の社会システムや価値観の転換のために、新しいアプローチの創出に挑む人材を育み、可視化していく仕掛けの加速が必要である。

「人口減少の進行」、「超少子高齢化による偏る人口バランス」、「国家財政のひっ迫」等の状況は好転せず、不透明な未来に対して不安がある。特に若者においては特に顕著である。彼らは不安を感じないように、未来を考えず「今」だけを見て、「挑戦」よりも「平穩」を選択しやすい傾向がある。次世代の若者が「希望」に思えるように、同世代が未来に対して主体的かつ挑戦的な行動していくその土壌と支援が必要である。また彼らの行動、成果を可視化していく必要がある。また、「SDGs」など、世界規模で持続可能な社会に向けて行動が求められている。またSDGsには、現在の延長線ではなく、バックキャスト(未来を設定して、そのために革新的に行動する)が求められている。

②「地域」と「若者」をコーディネートできる人材が不足している。

民間(企業)、行政、大学等教育機関、等、若者との関わりや支援機会の提供などの多くの相談を頂いている背景には、社会的にも若者の力を期待し、必要としている組織・現場に当会の取り組みの認知が広がっていると考えられる。また若者と新しい力を必要としている組織が具体的な接触機会など結びついていない。要因には、若者にとっての情報の価値は、情報の質や内容だけでなく、発信者と自身の関があるかによる。そうした若者の特徴を踏まえたコミュニケーションを取りながら地域に関わる人達の期待や必要性を繋ぎ、参画を提案し、価値を創出するコーディネートを担う機関、また人材の少なさも課題である。

③持続可能性のある新しい価値観、暮らし方が浸透してきた。

「求人不足」「働き方改革」「SDGs」「地方創生」など、持続的社會への「暮らし方」の再定義が求められている。従来の社会システムからの転換が求められていることに加え、新しい価値観やライフスタイル、つまり、より健康的かつ持続可能性が高いかが人にも、社会にも、地球にも重要になっていると捉えている。従来の延長線ではなく、これからの大きなあるべき姿を見据えた行動や支援が求められている。

当会のミッション、またこれまでの取り組みと上記の外部環境を踏まえ、以下の通り、課題と課題に立ち向かう基本方針と重点事業を定める。

(2)取り組むべき課題

① 大きなあるべき社会像を捉えた「事業(支援)スキームの見直し」、「プログラムの深化・連動」、「より一層の挑戦人材の育成と現場へのコーディネート強化」

② 「地域」×「若者」をコーディネートできる機関、人材の育成

③ 未来を見据えた人材の確保・育成等事務局体制の整備と会員・支援者との関わりの見直し。

(3)基本方針と重点事業

【基本方針】「地域」×「若者」を体現する現場性あるコーディネート事業を高める新たなスキームづくりと組織の基盤安定化

【重点事業】

①地域拠点を踏まえた、新たな事業スキームを検証していく。
②「iDEA→NEXT」を中心事業に据えて、他のプログラムとの連動性を高め、質の高い支援を提供し、修了後の継続的実践者を増やす。

③当会のコーディネートノウハウの他地域展開(ハンズオン)支援とネットワークの形成の準備を行う。

④組織運営の観点では、次期に中心を担う20代職員採用に加え働きやすい雇用環境づくりを行う。なおより信用を高め、NPO業界のモデルとなるよう、コンプライアンスの遵守においても力を入れていく。合わせて、YOUTH TIMEの位置づけを踏まえ、会員・支援者との関わりを見直し、具体的な改善を行う。

4.2019年度事業計画 ①特定非営利活動に係る事業

事業の種類(定款)	事業プログラム	事業内容(案)	備考(1.実施日時、2.場所、3.事業パートナー)		受益対象者の 範囲及び延人数	予算(収入)額 (千円)	
①社会事業を行う人材育成事業	実践型インターンシップ事業	実践型インターンシップ「GENBA CHALLENGE」	若者の力を取り入れて組織変革の加速	1.通年 2.企業4社 3.受入企業等	継続/自主事業	企業4社 大学生4名	880
		宇大課題発見・解決インターンシップ	企業・行政から提示された課題に対してチームとなって解決に取り組むインターンシップ	1.6月～3月 2.宇都宮市内 3.宇都宮大学キャリア教育・就職支援センター	継続/業務委託	市内企業3社 15名	900
	起業・創業ネットワーク事業	ソーシャルグッドスタートアッププログラム「iDEA→NEXT」	ブラッシュアップ合宿 ファイナルプレゼンテーション	1.通年 2.栃木県内 3.協賛企業等	継続/自主事業	6組	1080
		創業プロデューサー事業	起業希望者が集うエリアづくりと創業支援	1.通年 2.栃木県内 3.栃木県経営支援課	新規/業務委託	起業志向の 若者 100名	3710
		宇都宮市起業家精神養成講座	「起業の実際と理論」の授業運営。	1.10月～ 2.宇都宮大学 3.宇都宮市産業政策課、宇都宮大学キャリア教育・就職支援センター	継続/事業委託	大学生・高校生 30名	2100
	地域の担い手育成事業	UIJターン事業	「はじまりのローカル コンパス」	1.通年(6月～) 2.栃木県・首都圏	継続/自主事業	30名	2300
			若者移住・就労	1.通年 2.栃木県・首都圏 3.矢板市、他	新規/事業委託	20名	450
			Jimoto tochigi	1.8月/2月 2.栃木県・首都圏 3.県地域振興課	継続/業務委託	50名	4200
		地域の担い手育成事業	那須烏山市地域おこし協力隊研修	1.10月～2月 2.栃木県・首都圏 3 須烏山市	継続/業務委託	3名	1270
			地域づくり人材育成	1.通年 2.栃木県 3.栃木県地域振興課	継続/業務委託	300名	3980
若者人材育成	COC+連携事業	地域創生シンポジウム	1.夏期 2.栃木県 3.宇都宮大学COC+	新規/自主事業	50名	500	
	企業向け人材育成事業	宇大未来塾「とちぎ志士プログラム」 「次世代経営マネジメントプログラム」	1.5月～2月 2.栃木県内 3.宇都宮大学	新規/業務委託	20～30代リーダー候補 600人	4500	
その他の事業	各種プログラム開発・提供事業	西大寛エリア空き家活用ワークショップ、他	1.通年 2. 栃木県内、首都圏 3. 宇都宮空き家会議、宇都宮市創造都市研究センター他	継続/自主事業	40名	600	
②ソーシャルプロジェクト支援事業	とちぎ手仕事支援プロジェクト FukuFuku	福島の手仕事商品の販路開拓 福島での人材交流	1. 通年 2. 栃木県・福島県 3.	継続/自主事業	—	—	
	企業CSRプログラム開発	企業のCSR活動を開発、運営	1.通年 2.栃木県内 3.JTB他	新規/自主事業	—	—	
	YOUTH TIME(会員限定交流会)	会員間の相互交流と事業促進	1.隔月 6回 2.宇都宮市内	継続/自主事業	60名	100	
③ネットワーク/コミュニティ形成事業	地域拠点の活用・運営	Aret(仮)の運営による日常的挑戦者支援	1. 通年 2. ARET(宇都宮市西地区) 3. 光琳寺	新規/自主事業	200名	100	
⑤挑戦する若者を支える奨学金事業	ホンデチャレンジ	読まなくなった古本を寄付して若者を育む仕組	1.通年 2.全国 3.バリューブックス	継続/自主事業	40名	100	
⑧情報発信/出版事業	情報発信	WEBサイト、SNS(FACEBOOK, Twitter, LINE@)、ソーシャルニュースの管理運営。	1.通年	継続/自主事業	—	300	

5.運営体制 代表理事:1名 理事:9名(岩井理事、塚本理事、古河理事、大塚理事、小久保理事、金井理事、野崎理事、清嶋理事、中野理事、) 監事:1名(安藤監事)
職員:6名、うち常勤3名 非常勤3名(うち事業推進4名、事務総務2名) ※新規2名採用予定を反映

全体新事業スキーム案(2019.6.1～)

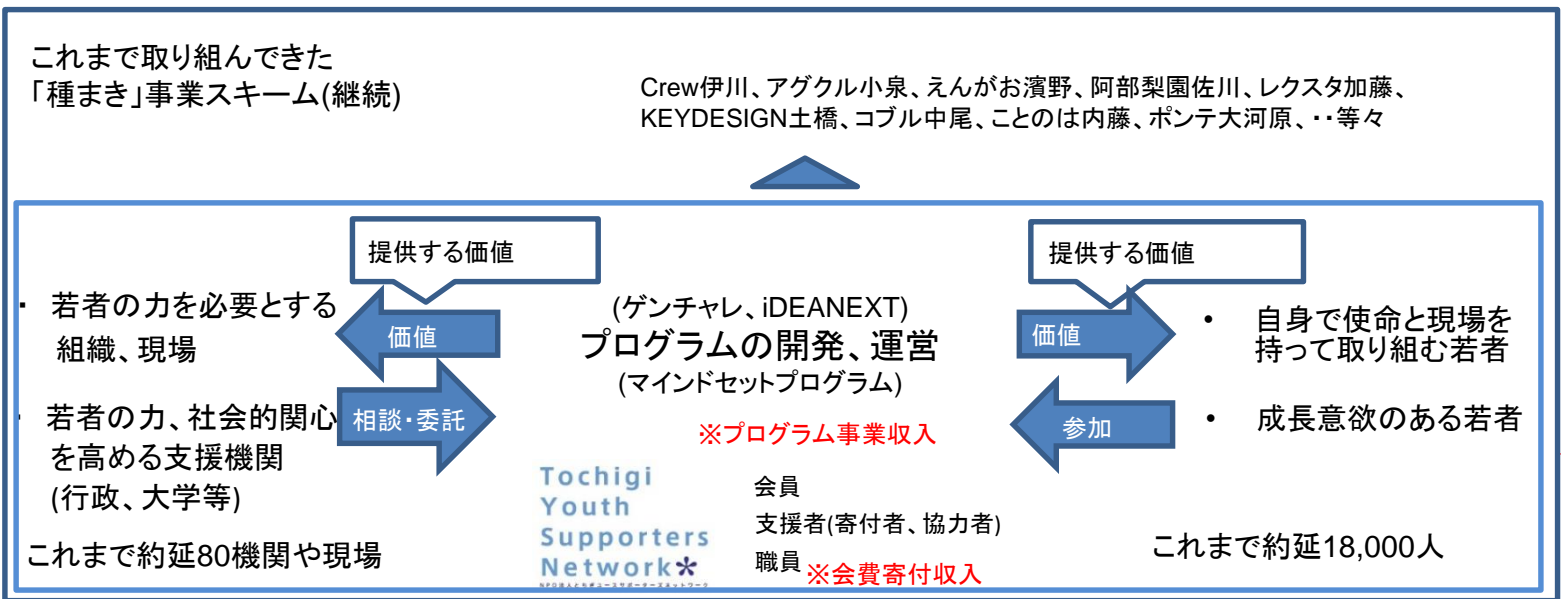
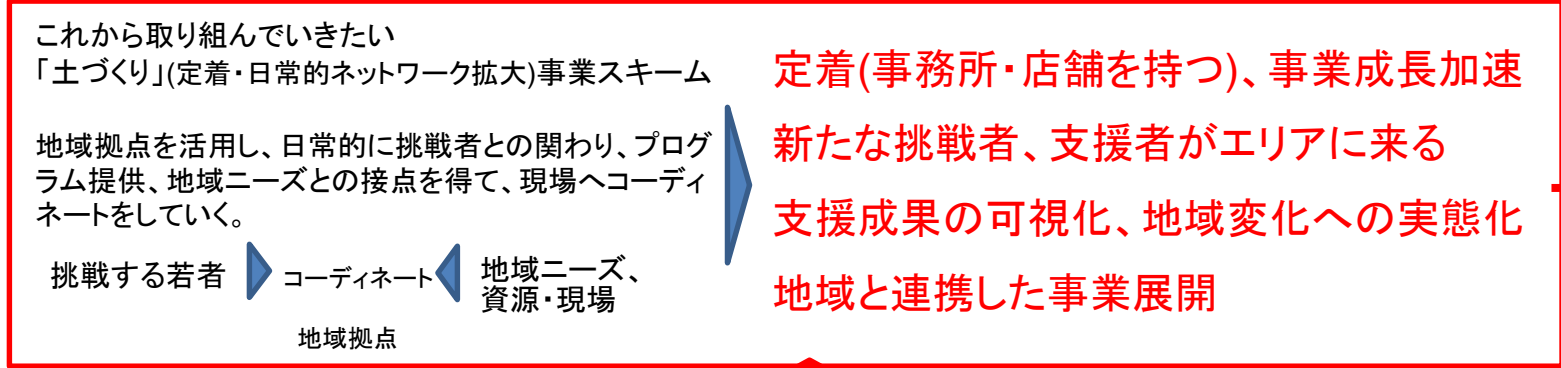
Mission Vision 若者の力を活かして地域の活性化、課題解決を加速する
 挑戦が生まれ、育まれる循環する生態系をつくる。

要協議・検討

中期vision 案1 新しいコトが起きるエリアを創造する。
 案2 ユースの支援モデルの他チーム展開する。(現場を持ったコーディネート機関の成長支援)

若者を活かして地域の活性化解決を加速する。

ユースネットワークを地域に活かし、課題解決の実践と挑戦者が生まれあう日常の景色をつくる。



新たな挑戦者、支援者の掘り起こし

▼光琳寺井上さん意図(岩井の理解、4/13井上さん同意)

- お寺の地域の拠所としての原点回帰。地域(住民、檀家)への深い安心の提供したい。
- お寺、また住職として人の生き死に、また生き方に関わる故、よりよく生きて欲しい願いととも、よりよく生きていける社会環境を作り出したい。
- さらに、地域の未来を光照らす創造を生み出す機能を持った新しいお寺の機能・役割の再定義(ソーシャルイノベーションの孵化機能)したい
- 檀家を始めとして、光琳寺のある西、西原地区が高齢者も多いことから、高齢者の活躍・役割を支えられる役割を担いたい
- 井上さん自身の持つ、マインドフルネス他の人材育成プログラムや提供先となる大手企業人材、またキー局メディアとの人的ネットワークを地元を活かしたい。

▼とちぎユースサポーターズネットワーク意図

- 挑戦する若者たちを育む機能をプログラムから日常的関わりができるようにしたい。日常的に新たな挑戦者が出会い、支えられる機能をプログラムではなく、エリア・日常として展開したい。
- 育んだ卒業生(起業家等)の現場や拠点/空間をつなぐ機能が弱い現状から、我々も地域に関わり住民の声、理解と期待を受けながら、卒業生に現場を提供・コーディネートしていきたい。(よそ者チャレンジャーと住民が関わり合う地域の玄関的機能、地域に人材定着機能)
- 若者による地域活性化、課題解決をミッションにしているが、事業成果が見えづらく、我々が実際に地域に関わることで、地域の変革事例をつくりあげたい。
- エリアに来ることで、挑戦意欲やいい出会いがあり、このエリアで暮らしたい、暮らす選択が起きるエリアの形成をしたい。

- ▼共通点→
1. 人との関わり、関係性が生まれ、育まれる。その関係性により、安心や希望が生まれる新しさが育つ空間
 2. これからの未来と社会に対して、命をより輝かせる使い方ができるような人を育みたい。
 3. 人づくり、まちづくりの拠点

▼コアコンセプト案 ※内々で共有。打ち出さない。言葉が重いので。

再定義(今までの常識を疑い、本質を捉え、意味づけをし直す)、暮らし・生き方の見直し、地域の変化促進、化学反応を促進する触媒、ソーシャル・キャピタル、→常識を疑い意味を問い直し生まれる、新しい関係性と生き方が育まれる 拠点→TERAを逆にした、ARET。

▼打ち出すコンセプト案 (わかりやすく、イメージしやすい)

・1年間議論をしながら、設定。
仮コンセプトとして、新たなもの物語を始まる場所？ 精神と時の部屋？ ソーシャルイノベーション育成拠点？

▼機能
<(地域住民が集い)安心できる機能>
<挑戦者が集い、高まる機能>

▼取り組み内容
会議、打合せ、お茶飲み会等への空間貸出
コワーキングスペース空間貸出
講座・WS、議論、プレゼン・マッチング等のプログラムの提供
講座・WS、議論、プレゼン・マッチング等のプログラムの提供
利用者発案プログラム、ARETゼミの提供、みんなで大掃除・食事

▼利用者に提供する価値
⇒安心、新たな出会い・関係性、自己肯定感
⇒刺激、肯定感、仲間、資源、情報
⇒アイデア、疑問、実践資源、
⇒発見、肯定感、刺激、仲間、出会い

▼利用者想定
<井上さんと関わりのある方>
<ユースと関わりのある方(若者:挑戦者、社会人:支援者)>
<自身に社会的挑戦のアイデアがありながら一歩踏み出せずにいる層(講座・ワークショップ受講しながらも自分で“やる”と思えないでいる層)→“やる”人が近くにいることで、“自分もやる”化 >
<持続的な活動にしていく意志のある市民活動者→キーマンに会う、新たな知識・刺激と出会う>

▼Aretオペレーション想定
<ユース日常業務>プログラム開発、運営
<ユース会員サービス>YOUTH TIME、
<Aret利用者フォロー>入室管理、Aret空間予約管理、情報提供
<日常的清掃>掃除機、ゴミ出し、
<>

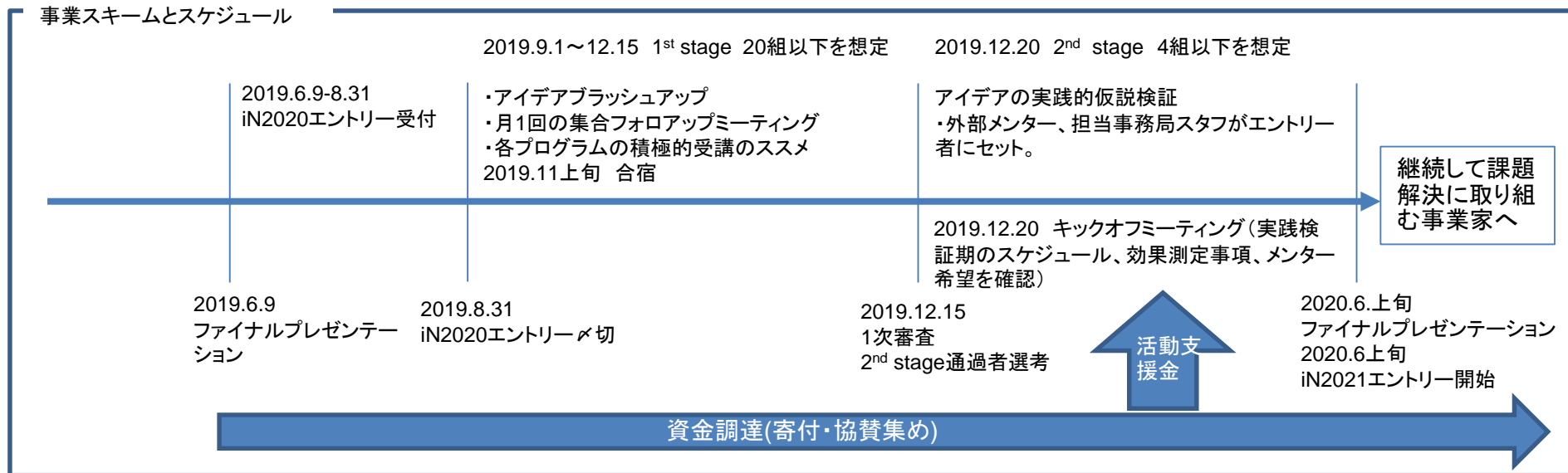
<1. 趣旨・概要> 2012年に始まったiDEA→NEXTは、「とちぎの新しい物語をつむぐ。」をコンセプトにし、ヒトとマチがイキイキとした地域を創るため、社会に新しい価値を提供する意志を持った若者を数多く輩出し、地域の困りごとの解決や社会をよくする活動を促進するアイデアの実現のために、若者が県内の地域活動実践者や経営者、同じ志を持つ若者同士や、オーディエンス(最後の公開審査会における一般観覧者)とつながる場です。またつながりによって、アイデアを持った若者がさらに自身のプロジェクトを加速させ、さらなる成長を生む機会にもなっています。

<2. 現状> 開始後7年目を迎え、iDEANEXTから事業として継続する事業家が生まれ、また卒業生が次世代の挑戦者を支える生態系として機能し始めている。しかしながら、エントリーから持続的事业に取り組む事業家には、以前障壁があり、目指しながらも終了後の活動継続は100%になっていない(2016年度40%(4/10)、2017年度25%(2/8)、2018年度は60%(3/5))。これらから継続して取り組む者は、エントリー段階から、現場、現物があると、実現したい景色と事業実施する覚悟が高い傾向がある。合わせて、そこに行くまでに自身が様々な機会、出会いを有していることを大きい。なお、2017年度より一次審査を設け、通過者に実践的仮説検証を取り入れたプログラム転換は、継続の取り組みにプラスの影響があったと捉えている。とはいえ、iDEA→NEXTの原点は、アイデアを持った若者の行動を実践化させる入り口でもあることを踏まえ、入り口は広げつつ、出口も高めることの両立を図ってきたい。

- <3. 課題>
- ① 修了後の継続的取り組みにおいては、プログラム効果以上に自身のモチベーションの高低による影響が大きい。これまでのプログラムスキームでは時間が足りない。
 - ② 当会で実施する(業務委託含む)プログラムとエントリー者の連動が図られていない。
 - ③ 本事業を安定実施するためには、現行でも150万の事業費が必要であるが、寄付・協賛金等による支援金額は不足しており(2017年98万)、また進行中業務と並行して行うために、資金調達に関わるスタッフの優先順位が上がりきらず時間的にもかけられていない。

- <4. スキーム改善ポイント>
 更に、アイデアからのアクション率と継続率を高めていくスタートアッププログラムにしてため、以下の点を修正し実施していく。
- ① 半年から年間を通じたプログラムへ。(12月エントリー切を8月切)エントリーを早め、1st stage「アイデアブラッシュアップ」と2nd stage「実践的仮説検証」に分けて実施する。なお、2nd stageの入り口として、1次審査を設ける。
 - ② 既存のプログラムと連動させ、多角的に自身のアイデアを見つめ直し磨かれる機会を広く数多く提供する。
 - ③ 年間通じたファンレイジングの実施。現行より倍の時間がかかることから事業費を年間200万円と設定し、年間を通じ(出会う人に当会理解と合わせて支援を募る)、支援を募っていく。

- <5. 改善によって生み出したい成果>
- ① 修了後、継続して課題解決に取り組む事業家の輩出数の増加
 - ② アイデアを持つ若者のエントリー数の増加
 - ③ 支援者・協力者の増加
- ▶ **ビジョン「挑戦が生まれ、育まれる循環する生態系をつくる。」の具現化**



当会の運営事業体成果の魅せ方会員の見直し(要整理)

現行

- 運営会員 … 議決権
- 賛助会員 … 支援者
- チャレンジ会員 … 利用者

運営事業体の魅せ方

- ユーザー … 利用者(チャレンジ会員含む)
- サポーター … 支援者(賛助会員、寄付者、ボランティア)
- パートナー … 協力者(取引先、講師、アドバイザー、事業連携先、等)
- メンバー … 議決権を有する会員(未来の作戦を立てる)
- ボード … 理事(未来の作戦の決定する)

